

「ボランティア養成講座」の紹介

本校は、追分小・払戸小や天王南中、秋田西高や金足農業高などとの学校間交流、あるいは児童生徒の居住地の小・中学校との居住地校交流を活発に行っているほか、地域に出での販売や清掃、交流活動に積極的に取り組んでいます。また、男鹿潟上南秋地区の小・中学校では障害理解授業も多数実施し、積極的に地域の障害理解の啓発を図っています。

高校生を対象とした理解啓発活動が、この「ボランティア養成講座」です。近い将来、大人になり親となる高校生を対象としたこうした講義、体験活動を通して、地域の理解者が増えるとともに支援者の輪が広がることを願い毎年実施しています。

◆今年度のこれまでの講座

期 日	講 座	行事等、講師	内 容	受講者数
5月 8日(水) 11日(土)	ボランティア体験 (2日間)	運動会予行 運動会	用具、スタート、ゴール、控え 所係など	高校生13名
7月18日(木) 7月30日(火)	ボランティア体験	部活動 (サッカー部)	サッカーの練習のサポート	高校生 4名
7月23日(火)	講義Ⅰ	本校教育専門監 本校職員	本校の紹介と見学、 障害の理解と支援、 障害者が働くということ	高校生23名
7月27日(土)	ボランティア体験	みどりっこ夏まつり	テント設営、出店、駐車場整理 会場撤去など	高校生27名 大学生 1名
8月 8日(木)	講義Ⅱ	本校職員	車椅子の操作 聴覚障害のある人の理解と支 援	高校生24名

計 延べ92名

◆講座の様子



運動会の決勝



サッカー部の練習サポート



講座受講の様子



夏まつりへの協力

◆今後の募集予定

- ・10月20日(日) ボランティア体験活動「学園祭」
(ステージ発表用具係、作業学習製品販売の支援など)
- ・1月実施予定 講義Ⅱ「ボランティアとは」
(講師：潟上市社会福祉協議会 ボランティア担当)

研修会を開催しました

夏休み中の8月6日（火）にインクルーシブ教育システム推進事業として、栗田支援学校と天王みどり学園の共催で研修会を開催しました。会場となった秋田県教育センター講堂には、中央地区の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校のほか放課後等サービスや福祉施設などから200名近い参加者が集まり、熱気溢れる1日となりました。

「きれいごと抜き」のインクルーシブ教育

□ 講 師 追手門学院小学校講師 多賀 一郎 氏



□ 内 容

「教室のあの子」とも呼ばれる発達障害の特徴をもつ子ども達。突然走り回る、些細なことでも異常に反応してしまう。こういった行動に対し、教師や支援者はどのようにかかわっていけばよいのか。きれいごとだけでは通用しない教室の実態を踏まえ、教師はどのような考え方や視点をもち、どのような対策をとるべきなのか。

インクルーシブ教育とは、「通常の学級において」行う教育、共生していくための教育であり、一緒に教育できる可能性を探っていくこと。多賀先生は、知識がないと「教師は善意で子供をつぶしてしまうことがある」と言う。インクルーシブ教育の実践は、「融和的なクラスづくり」と「子どもたち一人一人をどう見ていくか、良いところをみつけていくこと」の二つに集約できる。そして、教育は小さな努力を積み重ねていくものであり、良いところを保護者に伝えていくこと、保護者も教師もチームで子どもを支えることが大切。

研修会に参加できなかった方は、是非、先生の著書である「きれいごと抜きインクルーシブ教育」を読んでみてください。



写真 交流の様子

中学部の「居住地校交流」の紹介

交流及び共同学習には様々な形態があります。特別支援学校に在籍する生徒が、居住地の小・中学校で実施する交流及び共同学習が「居住地校交流」です。

本校では、中学生段階の生徒の居住地校交流を推進しており、男鹿東や天王南、五城目第一、飯島などの各中学校で今年度も実施しています。交流先の中学生からは「一生懸命頑張っていて、自分も負けられないと思った」「障害があっても自分たちと変わらないんだと感じた」という感想が、本校生徒からは、「久しぶりにみんなと一緒に勉強できて嬉しかった」という感想がそれぞれ聞かれています。居住地校交流を経験した子どもたちが、それぞれ自分の目で見て感じて、考えることで、相互に理解し、共に助け合い生きていく共生社会の一員としての生き方を考える機会につながっています。

今後の交流及び共同学習のさらなる充実に向け一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。